

『EuroShop 2017 Report-1』



『私だけのあかり』

赤い床から細いパイプでランダムに浮遊する四角いLED照明。パブリックスペースには、満遍なく降り注ぐ光ではなく、今を象徴するかの様に個人主義的な、場と間になっていた。



『未完成的塗り絵壁紙』

好きに色をつけていく、自分色に塗っていく、自分だけの世界。或いは、共同作業で思いもよらない世界が観えたりするかもしれない。自分の部屋も、編集することからクリエイトする次の感性へと向かう。



『WE LIKE NICE THINGS』

ナイスな考えを求めて、思考回路は色々な線となって無尽蔵に広がっていく。その線の先をいっしょに歩みたくなる様に思わせてくれたら、勝ち（価値）があるかも。



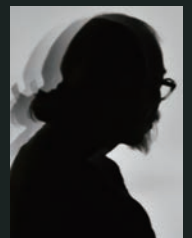
『ドリームカー』

夢の企画を運ぶオープンジープ。荷台はひな壇に改造されてポートフォリオでいっぱい。その想いは今にも舞い上がりそう！さあ、私たちを何処へ連れて行ってくれるの？！



『私はどれ？私は誰？私は何処へ？』

常識的な規則は、破られるためにある。変わることが、生きることだとしたら、自分も回りも、その数分だけ選択肢が必要になりうる。規則正しいようで少し違っている。崩れているようでまとまっている。揃っているようで凸凹している。サイレントマジョリティな商品は、『僕はイヤだ！』


 reporter
IWA I